

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 0177600236 | | |
| 法人名 | 株式会社マーファ企画 | | |
| 事業所名 | グループホーム はなかわ | | |
| 所在地 | 石狩市花川東1条3丁目12番地 | | |
| 自己評価作成日 | 平成23年2月15日 | 評価結果市町村受理日 | 平成23年3月31日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所の代表取締役が自分自身の経験した疾病により、利用者様の疾病、気持ち、自分らしい暮らし、尊厳を理解し何よりも重んじている。日々利用者様の自立性を高め、いつまでも自分らしい楽しい生活を過ごせるよう職員全員に周知している。また生きる事の楽しみの一つである食生活を重視し入居者様全員の嗜好を把握し満足が出来る味付けを工夫するよう指導している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

| | |
|-------------|---|
| 基本情報リンク先URL | http://system.kaigooho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0177600236&SCD=320 |
|-------------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------------|
| 評価機関名 | 有限会社 ふるさとネットサービス |
| 所在地 | 札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階 |
| 訪問調査日 | 平成23年3月1日 |

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、全てが広々とした空間の中で、ゆったりとした暮らしが継続されています。ゆとりあるエントランス、開放感がにじむ幅広い廊下、食堂とリビング、テラスのそれぞれの用途別のコーナーの演出など、運営者のこだわりと気配りが感じられる共有空間となっています。また、食事の提供では、食材会社で作る献立ではありませんが、味付けなど、ホーム独自のアレンジが職員の手で加えられるなど、利用者の食事に対する運営者の思いを感じる配慮が見られます。ホームでは、インフルエンザや新型コロナウイルスへの予防対策も徹底した対応が行われています。利用者は勿論、外来者にも手洗い、うがいを励行し、食事前の再度の手洗いを促すなど、徹底されています。このような暮らしの中で、利用者の笑顔を沢山見ることが出来るのは、ホームが持つ優れたところであり、管理者始め職員の努力に敬服いたします。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|---|---|--|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価及び外部評価結果

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|--------------------|------|--|--|--|--|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 管理者及び職員が目につく数箇所に掲示し幾時にも再確認し日々その実践に取り組むよう努力している。 | 職員会議の中で、理念を唱和するなど、管理者と職員は常に身近に感ずるよう努めている他、時折、運営者による理念の意義について講義が行われています。 | | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 周辺歩道等の草むしり、ゴミ拾いによる美化活動を積極的に行っている。当施設の夏祭りでは回覧板を回すなど地域住民に参加して頂き、交流をより深めている。 | ホーム周辺の歩道の清掃に利用者も参加するなど、自主活動の継続の他、ホームが行う「夏祭り」は、地域の恒例イベントとなって親子連れで賑わっています。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 散歩では挨拶から始まり、庭の花々を観覧できる関係作りを広げるよう努めている。当施設の畑で収穫をした野菜を近所にくばり、認知症の人の理解と交流に生かせるよう努力している。 | | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | ホームでの取り組み状況を報告し、意見・質問等を受け職場で話し合うことを実施している。また話し合いをサービス向上に活かし、その結果を次回の運営推進会議等で報告している。 | 昨年からの取り組み課題ですが、欠席の家族への会議内容の報告、議事録の整備、避難訓練を含めた行事内容の報告などは、まだ十分とはいえません。 | 他の行事と組み合わせた会議の開催が見られますが、明確に区分した議事録の整備が必要です。また、議事録を欠席家族への送付、評価への取り組みを報告するなど、会議の持つ役割を再考する取り組みを期待します。 | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 状況に応じて、相談と報告を行い助言を活かしている。約2ヶ月に一度、介護相談員の訪問があり、昼食を食べながら、利用者・職員と交流する取り組みを行っている。 | 2ヵ月毎に市の介護相談員が来訪して、利用者や職員間の諸問題解決や交流をしています。今後は、評価で得られた課題解決を報告しながら、協力関係を更に進めることとしています。 | | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束に関わる重要事項を全ての者の目につく箇所に掲示し、常に意識して利用者のサービス等に取り組んでいる。 | 管理者及び職員は、身体拘束の無いケアを実践するため、機会あるごとに研修会への出席やミーティングルームなど、掲示した内容を日々確認しながら、サービスの面で実践に努めています。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | ホームの理念である「穏やかで楽しい尊厳ある暮らしを保証する」を周知徹底することによって「虐待」という言葉の存在はありえないという意識が常にもてる環境作りに努めている。 | | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 後見制度の資料を見やすい場所に置き、いつでも目を通すことができるようにしている。また、都度管理者より状況に応じた説明を受けている。地域包括や他の関係者とも話し合い、後見制度の活用や新たに申請も行っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約書の内容を十分に説明し読み上げ質疑応答に答え十分に納得していただいた上でサイン、捺印していただいている。改定の際は文書を送り問い合わせに答えている。 | | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ホームに苦情箱を設置したり、苦情相談窓口を設けている。また家族会を行い要望、意見交換等を行っている。相談等があった時、職員と共有し改善や運営に反映している。 | 年4回開かれる家族会での意見や要望の聴取、また、家族の訪問時に意見を聞くなど、運営に反映させるように努めています。 | |
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月に一回は職員全体会議を行い、職員の意見や提案を聞いてもらえる機会を設け検討している。また、会議の席で言えない相談も個人的に聞く機会も設けている。 | 毎月1回開催の職員全体会議では、待遇の問題など、あらゆる意見が出され、運営者はホームの改善に役立っています。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者、管理者は職員の能力に応じ給与・賞与に反映させている。また、向上心を養うため個々にあった役割をあたえ勤務内に出来る時間を設けられる様に努力している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 業務を職員に分担し担当者として育成している。石狩市リンクル等で行われる研修に管理者職員に参加してもらい勉強の機会を設けている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 石狩市リンクルで行われる同業者との交流会に参加し意見交換や相談の機会を設けている。他の施設の管理者研修の研修場所としても提供している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前に利用家族と一緒に見学に来てもらい不安や要望等を傾聴し職員に文章と口頭で周知し、利用開始時安心できる関係作りを構築している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前に利用者を交えず話を聞く様にしている。また、家族の言葉に耳を傾け、現在迄の精神的な思いをねぎらう気持ちで接している。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 利用者や家族の意向を聞き取り、必要とするサービス内容を検討する。また、本人の心身の状態を見極め無理なく他のサービス利用も含めたケアを行っている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 本人が出来ることは、自立を見守りながら行ってもらおう。本人と接する時は、喜怒哀楽を共存し畑仕事や花見等色んな行事と一緒に楽しんでいる。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 利用者と家族の絆を大切にし、親の家に帰るような感覚でホームに遊びに来てもらう様心がけている。また、家族を招き食事会や運営推進会議に利用者と出席してもらい支え合う関係を築いている。 | | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 通院時、馴染みの職員と話をしたり、家族と自宅に遊びに行ったり、以前に行っていた馴染みのスーパーへ職員と買い物に行ったりしている。 | 通院時を利用して、家族と共に住居に立ち寄るなどの支援、馴染みの店での買い物、理容院の利用など、馴染みの関係継続の支援を行っています。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者ができるだけホールに集まり、ゲーム・歌等お互いに笑顔で語り合える様工夫している。また利用者同士、意見の誤解が無い様、職員が間に入る事で関わりを大切にしている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 運営推進会議やクリスマスパーティーなど行事のたびに案内を送り、参加していただきながら変わらぬ関係を大切にしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 一人一人の生活習慣を大切に、それぞれ馴染みの物を持参され今までの暮らしと変わらない様に努めている。また、把握に困難な場合は十分な観察を行い家族を交えスタッフと検討している。 | 利用者の生活習慣を大切にしながら、日常の会話の中から、思いや意向の把握に努めています。また、家族からの情報は、職員間で共有しています。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 利用者本人、家族と面談し生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等を記録し全職員が把握するよう努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | ケアプランに一日の流れを記載している。また記録の他に各自の心身の状態や有する力の把握を申し送りに活かす様努めている。 | | |
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 担当職員でモニタリングを行い、本人、家族、関係者と話し合いの場を設け、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。 | 日常的なモニタリングは、職員のノートに記載され介護計画の作成に反映されています。今後、アセスメントの内容について改良を加えて、より適切なものへと検討の予定です。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 毎朝の申し送りの中で気が付いた事を報告、記録し全職員で情報を共有しながら実践し介護計画の見直しをしている。また、職員一人一人にノートを提供し記録することで実践に役立つ様にしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人、家族と相談しながら、柔軟姿勢でその都度対応できるよう協力する姿勢を保っている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 図書館や近隣のスーパー、近隣の行事に参加し楽しむ事ができる様、支援している。 | | |
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 地域の協力医療機関や、当ホームの主治医により、各協力医療機関を確保している。本人の希望に応じ受診したい医療機関があれば、紹介状を依頼し受診しやすい体制を整えている。 | 従来からのかかりつけ医への受診は、家族及び職員の支援により行われています。ホームの主治医による毎月2回の往診も行われています。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週に2回看護師が来ており、その際に気づいた事を伝えたり、相談している。必要時はドクターに連絡をしている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 文書や口頭等で必要な情報交換を行い、医療機関や家族との相談をいつでも受け入れる体制を築いている。また、家族の了解により病院に出向き、今後について医療機関と連携をはかっている。 | | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 病状の変化と共に家族と早い段階から話し合う様にしている。また、主治医からも重度化した場合について、家族に十分な説明をしている。 | 入居当初には家族に対し、重度化への対応の指針が説明され、同意書を得ています。状態の変化に伴い、幾度も医師を交えた話し合いが持たれ、指針の共有を図ることにしています。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 去年は初期対応の訓練を2度行っている。また、普通救命講習を職員全員で受けている。 | | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年に2回消防署の職員に来て頂き避難訓練の実施と指導を行っている。自動通報装置もあり災害時には消防署に連絡が行く様になっている。また、地域住民や市役所職員とも避難訓練に参加している。 | 消防署の協力を得て、夜間想定を含む訓練の実施、救急救命技術の全員取得など、細心の配慮が見られますが、避難訓練後の反省点などの記録がありません。また、地域住民の方々への協力要請も十分とは云えません。 | 訓練実施後の反省は、臨場に際して大切な要素となり、失敗や成功事例など、以後に活かされるよう反省が大切と思慮します。また、地域住民の方々への協力要請に際して、漠然とした要請ではなく、臨場での役割を明確にしたマニュアルによって、協力要請されることが望ましく、その取り組みを期待します。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人一人の人格を尊重し、プライバシーに配慮した声かけや介助を行っている。また、居室に入る時も必ず了解を得ている。 | トイレの誘導など、プライバシーに配慮した優しい声掛けが日常的に行われています。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 職員は会話や日々の生活の中で本人の思いや希望をくみとり、本人が出来ない部分のお手伝いや、出来る部分を活かした働きかけをしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 時間の決まりはある程度あるが、職員の都合を優先するのではなく、毎日の生活が自分らしく無理なく過ごせるような支援を心がけている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 職員がご本人の希望に合わせて髪を染めたり洋服の相談を受けている。また、毎日清潔な下着、衣類を身につけ、身だしなみには常に気を配っている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 職員も利用者と同じ食事を一緒に楽しんで食べながら食べ方の混乱や食べこぼし等のサポートをさりげなく行っている。一人一人に合ったお粥、刻み方などを工夫し食器も使い慣れたものを使用している。 | 運営者の強い意向もあり、豊かな食材による味付け、彩りなど、美味しい食事の提供が行われて、利用者の好評を博しています。職員は食事を一緒にすることで、コミュニケーションを図っています。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 献立表も利用者が見られる様に目立つところに貼ってあり、18名の利用者どなたも美味しいと感じられる味付けを工夫している。また、水分量が一日を通じて確保できる様工夫し、一日の水分量も配慮している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後イソジンでのうがいと歯磨きを行っている。介助が必要な利用者には職員が仕上げを行い、口腔内からの感染に留意している。 | | |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 利用者一人一人の排泄パターンを把握し誘導により失禁が少なくなるように支援している。 | 職員は、トイレでの自立排泄の大切さを十分に理解しながら、利用者への声掛けなどで、自立支援が行われています。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 職員は便秘について理解し、主治医にも相談している。食物繊維を取り入れた献立と水分摂取を目標に取り組み、個々の心身に配慮した運動ができる様促している。 | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 毎日バイタルチェックを行い健康状態を確認し、湯船の中でリハビリを行ったり利用者に合わせた入浴を心がけている。また、曜日を決めずいつでも入浴できる体制を整えている。 | 週に2～3回の入浴を勧めながら、利用者に沿った入浴支援が行われています。気の合った利用者同士の入浴もあり、職員は見守りながら支援しています。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 利用者一人一人生活・睡眠のパターンの観察を記録し、必要に応じ不眠傾向の利用者は主治医に相談している。利用者が心身を癒すことのできる空間の確保、清潔な環境整備や不快音の発生しないよう常に心がけている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個別ファイルを作り薬剤情報をよく読み、用法、用量を理解する様心がけている。また、医師の指導を受け観察の結果報告をしている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|------|------|--|--|---|-------------------|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | できるだけ利用者一人一人の得意なことをしてもらい、リビングでハーモニカを吹いてもらったり、菜園を手伝ってもらったり等の利用者の生活歴や力を活かした役割を発揮できる様努力している。 | | | |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 本人の希望により職員が同行し石狩沖座礁船を見に行ったり花見に行ったり、その他色々な場所へドライブ方々楽しんでいただいている。また、利用者のご家族とも遠方に出かけるなどしている。 | 夏季には日常的な近所の散歩や買い物、少し遠くへのドライブなど、閉じこもりを避ける支援が継続されており、家族にも参加を呼びかけるなど、機会作りもしています。 | | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 現在利用者が希望の物を職員と買い物に行くという事はほとんど無いが、他の利用者と一緒に買い物へ行き、手伝ってもらっている。 | | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 利用者に家族や知人からの電話を取りついたり、利用者が希望する場合はご家族、知人に電話をかけている。また、手紙や年賀状が届くと利用者に渡し、利用者が送りたい手紙があれば職員が投函しに行っている。 | | | |
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有部分はバリアフリーで杖歩行や、車椅子でもストレス無く生活できる環境にしている。また、植物を育てたり、利用者が安らぐ音楽を流したりして家庭的で明るく清潔で落ち着いた雰囲気を感じている。 | 広々とした食堂及びリビングは、ワンフロアにあって別の空間作りが演出され、片や食卓、もう一方はソファやテレビを設えた、寛ぎのコーナーとなっています。また、隣接したテラスでは機能訓練用具も備えられています。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 廊下の窓側に椅子を置いたり、テラスにテーブルとソファを置いたりして新聞を読んだり、利用者同士で楽しんでもらえるよう工夫している。 | | | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人らしさを大切にした居室になるよう、利用者や家族と相談し家具等を配置している。 | 居室は、使い慣れた生活用品の持ち込みは、利用者によって違いはありますが、個性的なレイアウトで、清潔感が漂います。DVDを楽しむなど、安心の空間となっています。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 廊下やトイレ、浴室に手すりを設置し、洗面所、トイレには車椅子対応になっている。また廊下には歩行の妨げになるような物を置かないようにしている。 | | | |